

1961

学校法人・桑沢学園

桑沢デザイン研究所
案内



● 桑沢デザイン研究所

● 東京都渋谷区北谷町32番地

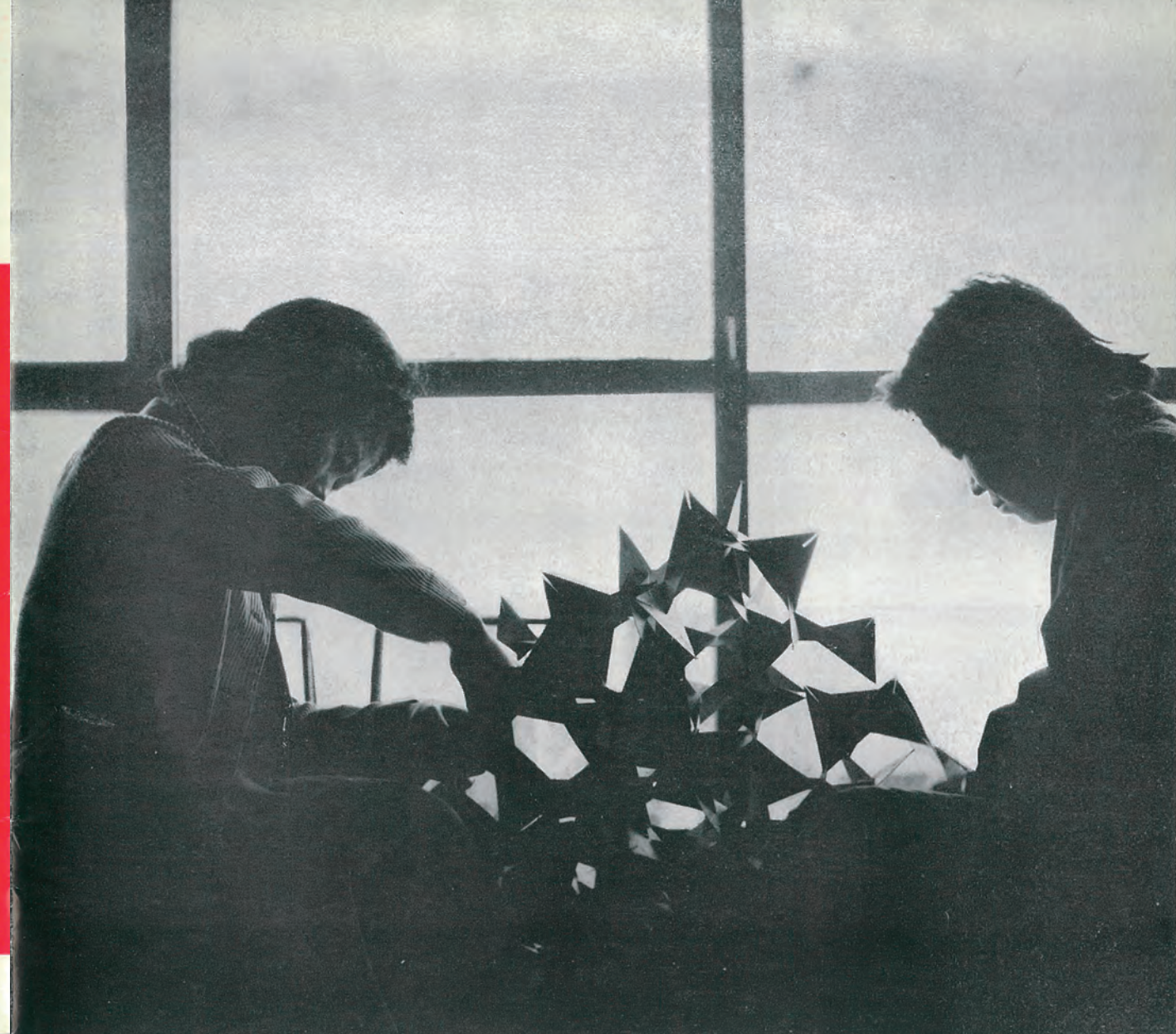
● 461 / 5330・8853





目次

前がき	1
進学コース・卒業後の諸分野	4
リビングデザイン科 1年	6
リビングデザイン科 2年	8
リビングデザイン研究科	10
ドレスデザイン科 1年	12
ドレスデザイン科 2年	14
ドレスデザイン科 3年	16
Ⅱ部説明	18
基礎造形クラス	19
プロダクトデザインクラス	20
ヴィジュアルデザインクラス	20
ドレス技術クラス	22
ドレスデザインクラス	22
作品	24
教職員一覧	26
授業日・学費	28
入学手続	表 3



桑沢デザイン研究所の教育は

デザイン……それは人間性に立脚し 生活に根ざし 社会の進歩に貢献するものであり デザイナー……それは ゆたかな創造力と同時に 科学的な判断力の持主で 現代社会の一員としての使命と責任を 十分に認識した人であるという観点のもとに出発しています したがって その教育目標は

デザインとは何か

デザイナーの態度は どうあるべきか

日本のデザインとはどうあるべきか

の根本を 正しく把握させ あわせてデザイン感覚の正しい基礎を実習をとおして 徹底的に身につけ 各人の個性 才能を発見させ 助長するところにあります それらは すべて自分自身の“手”と“あたま”を使って積極的に学びとります また単なる器用な職人の速成でないことはいうまでもありません ここでは また学校を一つの社会と考え 学習をとおして お互いが よりよく協力し 理解することのできる人間になること つまりチームワークの精神を身につけさせます

このことは 例えばデザイナーの仕事は 画家が1人でアトリエにこもって仕事をするとは異り その仕事の場合は 現代の生産という組織の中にあり 常にチームの協力作業を必要とするため 相互の人的・感覚的・技術的な理解と協力が要求されるからです

現在ここでは ドレスデザイン科とリビングデザイン科(昼間)があります

ドレスデザイン科は

これまでの花嫁教育あるいは家庭裁縫としての洋裁とは 本質的に異ったところから出発しています

ここではまず 前述のとおりデザインおよびデザイナーの本質を 広い観点に

立って把握させます

教育内容も 単なる裁ち・縫いの狭い技術の習得だけでなく デザイン感覚の基礎訓練から徹底して行います またドレスデザインだけでなく 衣服と家具・室内・生活器具など他の分野との関連をもたせ 広い視野に立って学ばせることも特色です

リビングデザイン科は

グラフィック・デザイン インダストリアル・デザイン インテリア・デザインなど デザイン各分野に共通する要素を 総合的に学ばせます

実習としては 木片を削り 紙を切り 針金やプラスチックを曲げるなど 子供の遊びのような作業をします こうした一連の訓練はポスターを描き 家具や自動車のデザインを夢みる人たちにとっては 意外なことであり 失望をあたえることかもしれません しかし 単なる技術の習得のみを望むならば 他にそれを満たす場はありましよう 自らの手で一片の木片を削ることのなかに 木材というものの無限の可能性を発見し 道具を“自分の手”にすることによって 造形のABCを一つ一つ自分の手で体得してゆくことに重要な意味があります

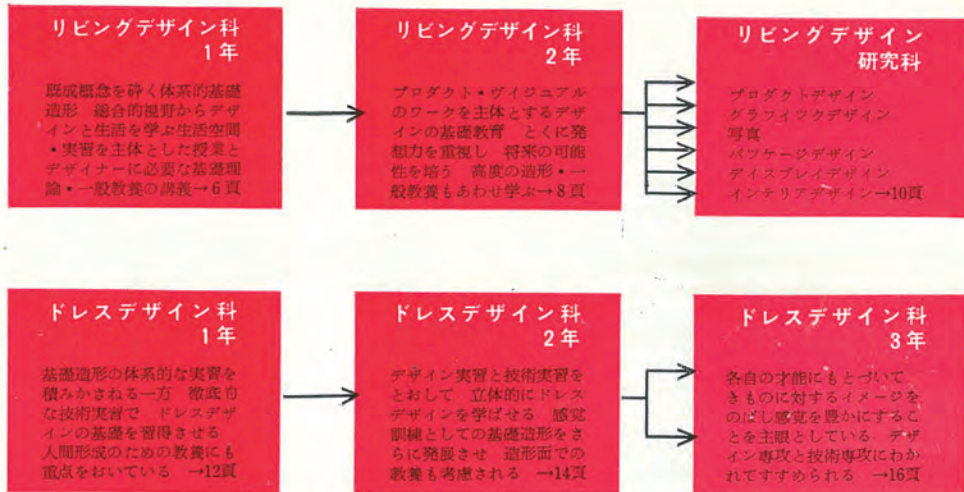
地味な 一見遠まわりで無駄のようにみえるこの作業により 将来自分の“ことば”をもって語る 豊かな創造力の持主となりうるので

これらの教科——基礎造形を核として ヴィジュアル・デザインおよびプロダクト・デザインの実習へ発展させますが この課程においても それぞれの分野の本質をとらえさせることが主眼で 技術の習得だけではありません

なお夜間クラスは 夜間の特殊性に応じて 独自のカリキュラムが組まれています

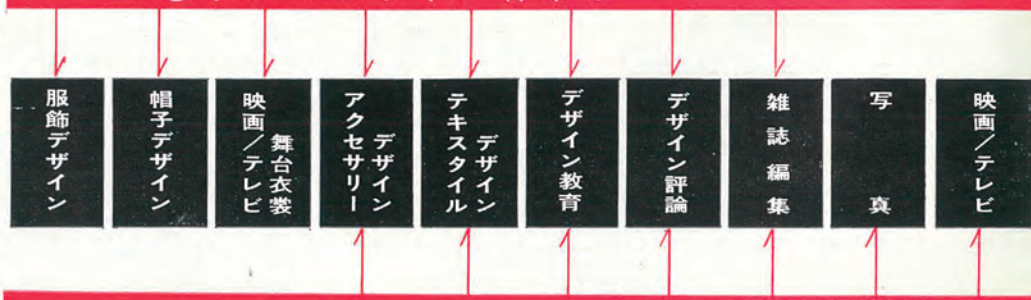
I 部 ● 進学コース

2年制度 その上に研究科が新設される 1年から2年へは成績・学業態度および必要に応じ試験で進学可否を決定する 研究科は選抜の上希望コースに入る 正規の進学コースのみ



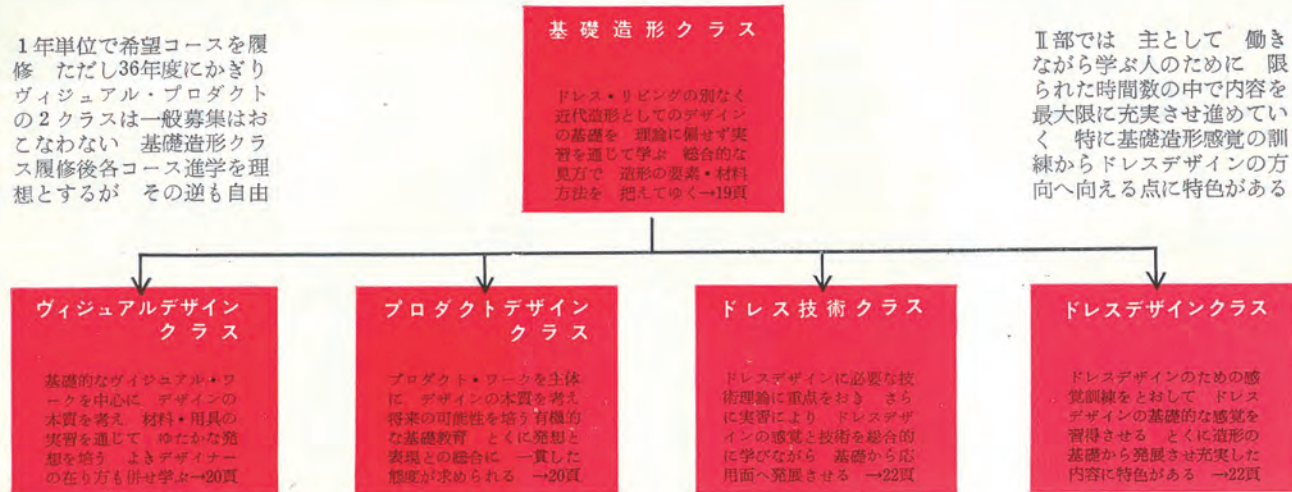
I部では進学を基準として考え 1年は基礎の習得 2年はアイデアから実物製作まで 3年はデザイン専攻と技術専攻にわかれ 各自の個性と意志にもとづいて任意に選択・進学できる

● ドレスデザイン科卒業



II 部 ● 進学コース

1年単位で希望コースを履修 ただし36年度にかぎりヴィジュアル・プロダクトの2クラスは一般募集はこない 基礎造形クラス履修後各コース進学を理想とするが その逆も自由



II部では 主として 働きながら学ぶ人のために 限られた時間数の中で内容を最大限に充実させ進めていく 特に基礎造形感覚の訓練からドレスデザインの方向へ向える点に特色がある

卒業後の方向



● リビングデザイン科卒業

デザイン関係には左図のような広汎な職業分野があります ドレスデザイン科・リビングデザイン科卒業後に進みうる方向を それぞれ矢印で示してあります 現在多数の卒業生がこれらの領域でデザイナーとして また技術者・編集者・ディレクターとして活躍中です 新鮮な造形感覚は どの職場でも求められています

1週 24時間
入学資格 高等学校卒業程度
男女を問いません

1年では デザインの諸分野に共通する基本的な要素を 総合的・組織的に実習をとおして学びます ここでは既成概念にとらわれず新しいものの見方 考え方を徹底的に身につけることを 大きい目標として始められます このために学生は 積極的な意欲をもって各課題にとりくみ 新しい造形感覚を自主的に体得することがつよく望まれます

したがって 授業は実習を主体とし その積み重ねの上に デザインの初歩的な基礎も体得しうるように組まれています この1年間の教育は 将来デザイナーを志望しながらまったくの第一歩から始める人 または現在デザインに関係する職場にあって基礎の欠除を痛感している人に 正しい基礎学習としてもっとも効果的です

基礎造形

生活空間

造形教養・一般教養

- I
- II
- III
- IV

- 住空間
- 生活器具
- 表現実習

- 造形原論 I
- デザイン教養
- 社会学
- 憲法政治学
- 自然科学
- 英語

造形活動は 有史以前の古代から われわれ人間の活動の重要な部門であり 人類の歴史とともに その文化の証明として多様な展開を続け 今日技術文明・原子力時代を来している デザインが20世紀の造形活動として 歴史と未来につながる使命を帯びるとき もっとも根本的な造形思考と 自由な表現力による創造力の解放が行われなければならないのは自明である こうした主張のもとに当所独自のカリキュラムにしたがい 材料・用具・構造・機能・意味を体験的に理解し 形・色彩・材質・空間などの造形要素とその相互関係を統一的に把握してゆく これら新しい視覚・触感覚の実習を重ねてゆたかな発想と個性の表現をめざす

デザイン上の諸問題は すべてこの生活空間という概念に包括的に含まれる そこには人間の生活とその環境の総合的なパースペクティヴがある 専門分野にすすむ前に この全体像を的確に把握しておくことは 現代のデザイナーの必要条件である ここでは 大きい空間構成と その中で使われるものとの両面からこの問題を追求し 造形をとおして生活空間におけるデザインの正しい考え方を学んでゆく 生活器具・家具・室内・建築・公共施設・地域社会・都市などの諸分野についての機能・形態・材質・グッドテーストの研究をすすめ あわせて基礎的な図法・製図の技術実習をおこない 新しい生活環境についての認識を深めてゆく

造形教養では 他教科の造形体験とも関連して その裏付けとなる理論・歴史を学び 新しい視野をもたらし思考力を培ってゆく 平易な解説に豊富な図板・スライドによる視覚的方法を加えて デザイナーとして必要な基礎理論を効果的に理解させる 一般教養は デザイナーである以前に社会人であることが要求される現代社会の中で 広く豊かな人間的教養を身につけさせ デザインの仕事の背景となる社会・政治・経済の諸問題にも深く認識をすすめてゆく また英語テキストには H・リード G・ネルソンなどデザイン関係の著書から選び語学もデザイン教養の一環として学ぶ なお各種の見学を必要に応じておこなう



基礎造形

ハンドスカルプチュアのワークは粘土を握り触感で形を確めることから始まる

1年の基礎的な教科学習の上になつて かなり具体的なかたちで 各専門デザインの総合的基礎教育にはいります
新鮮な造形感覚を持続させるための基礎造形現代デザインについての総合的概論 および専門的・技術的理論をあわせ学び 実習面では焦点を ヴィジュアル・プロダクトの二つにしぼってすすめます 前期の基礎的訓練の

延長として デザイナーに必要な一般的常識と技術的諸問題を 十分身につけておくべきだという考え方のもとに 広い教科目がくまれています 基本的には 職人的テクニシャンをつくるための単なる技術教育ではなく デザインに対する根本的思考力を養い 将来に伸びる可能性を培うための人間教育が2年間の教育の目的だ ということです

基礎造形

ヴィジュアルデザイン

プロダクトデザイン

造形教養・一般教養

- I 概論 I・II
- II グラフィック
- III フォトジェニック
パッケージ

ヴィジュアルコミュニケーションの問題の根本的な追求をすすめながら グラフィックでは レタリング・レイアウト・イラストレーション・印刷等の基礎的な技術・知識を学び 表現能力を培ってゆく
フォトジェニックでは メカニズムと人間の目の結合という観点で写真をとらえ 理論と実習により デザインと写真の総合的な把握につとめる
パッケージは プロダクトとヴィジュアルの中間領域としてとらえ 今後の発展性を重視し 特に構造・機能の研究に独自の方向をすすめてゆく

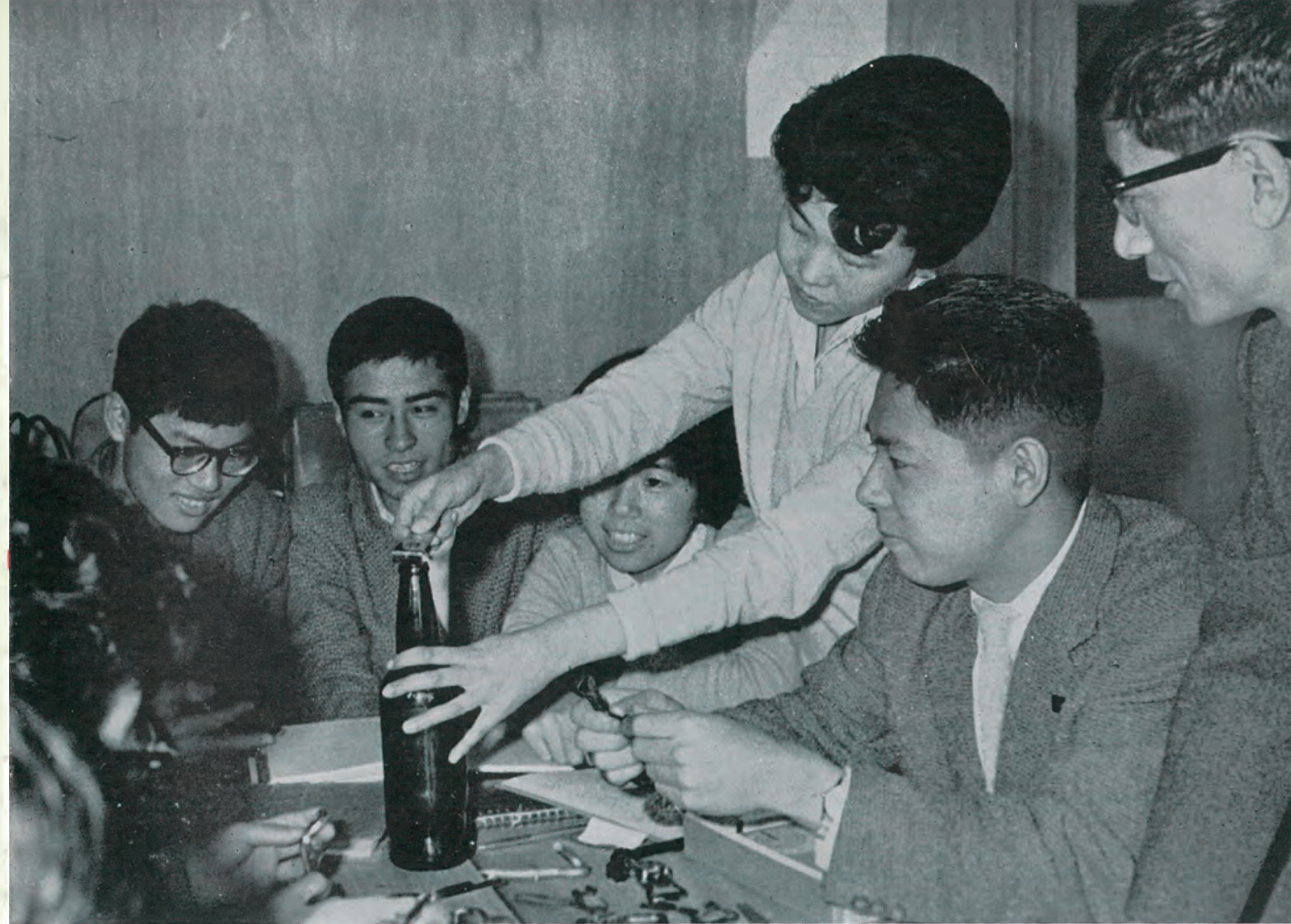
- 概論 I・II
- 実習 I・II
- 生活空間
- インテリア
- ディスプレイ

生活器具・事務用器など身近かなものを題材にしてワークをおこない そこに出てくる共通の問題点をつうじて イングストリアルデザイン全般に考え方をすすめてゆく
製図・レンダリング・モデリングなどの技術面の実習とともに それ以前の発想を重視し 機能・構造にもとづく本質的なデザインを把握させる
また住空間の研究からインテリアへ さらに量産家具に発展させ ディスプレイデザインまで総合的に学んでゆく
あわせて各種材料の機能・構造について 講義と見学を行う

- 造形原論II
- 近代美術史
- 心理学
- 現代文明論
- 英語

造形教養では 1年で学んだ一般的な基礎造形理論を土台にして より高度の造形原論さらに具体的にデザインの実際面と結びつけた社会心理学・技術理論など さまざまな角度から掘り下げて学習し デザイン思考を深めてゆく
またそれは デザインと社会との広く深い結びつきを よりいっそう痛感させずにはおかない
一般教養では政治・経済・文化・芸術などとの関連を明らかにして デザインに社会的視野の拡がりをもたらす 明日のデザイナーとしての社会的責任を自覚させる

デザインの発想と表現に必要なとされるさまざまな方法と用具について 体系的に把握するための感覚実習を ひきつづき展開・深化させてゆく
具体的デザイン学習の段階に入っても 創造力の源として基礎造形の精神は カリキュラムの中核をつらぬいている
ここでは デザイン面にその成果を実際化して 立体構造に独得の強みも発揮させるが同時に自主的・積極的な実験意欲が強くのぞまれ 現代の新しい造形空間における 色・音・光などの時間的表現の可能性追求も試みられる



プロダクト・ワーク 着手第一歩 栓抜き一つにもデザインの基本問題が要約されている

研究科

2年修了のうえに少数選抜された研究クラスが新設されます その特色としては 個人指導とチームワークの有機的統一といえましょう 下にかかげた専攻コース別単元ごとに担当教官の研究室運営の形式をかりて独自に研究・実習がすすめられるため少人数がグループを作り 担当教官のもとに配属されることとなります なおこのグループはいくつか

あるいは全部統合されて それぞれに関連あるテーマの下に教育活動を取り 将来のデザイナーのあるべき人間像形成をめざして 自主的な地道な研鑽が期待されます 2年の基礎実習の上にすすめられるこれらのコースは 各自の視野を拡大し 視点を凝集して やがてデザイン各分野への飛躍的な活動を約束する足がかりとなるでしょう

コース別

専攻コース実習

専門教養・ゼミナール

プロダクトデザイン

プロダクトでは工業生産の実際に即して 軽機器から重機器へと本格的なデザイン発想処理のトレーニングがすすめられる プレゼンテーションのための表現技術も重んじられ徹底的な実力養成をめざす グラフィックでは ディレクターシステムによるデザインポリシーの研究など 社会の要請にこたえる新しいグラフィックデザイナー育成につとめ 発想と表現力に加えて その役割の正しい認識を学ぶ 写真コースでは イメージを高度の技術により自由に表現しうる いわば写真言語の完全なマスターにつとめ 現代の視覚であるこの領域に さらに新しい可能性をもたらす

能力を培う 意味と時間性の問題も不可欠の要素である パッケージは マーケティングでその重要性が認識されつつある現在 表面処理に比べて立ちおくれの観ある機能構造面の研究に力をそそぐ 将来の発展性が予想される新しいデザインの分野である インテリアは 室内設計・家具を含む 人間の居住空間におけるデザインとして もっとも日常生活に密着した重要な分野であり 新人デザイナーの出現が要望されている ディスプレイは 新鮮なデザイン感覚がとくにヴィジュアル面にのぞまれるが 立体的・空間的な構成力が必然的に要求され その領域は広い

現代は機械時代とも大衆社会の時代ともよばれる 技術文明の貢献によつて最高度に機械化された過程はめだつた諸特長を形づくっている この大量生産・大量伝達・大量消費という現代社会の事象に対し その多角的・有機的な理解把握のために 理論的講義が今までにもまして ほりさげと展開とが予定されている この講義と並んで 各自のめざす専攻実習コースを核とした合同あるいは単独のゼミナールでは 各自の自主性ある説得力を伸長させ 将来デザイン各分野において 自覚した創造活動をもって飛躍する足がかりとして有効にはたらしきつづけるにちがいない

グラフィックデザイン

写真

真

パッケージデザイン

インテリアデザイン

ディスプレイデザイン



ヴィジュアルデザイン 最終成果を問う卒業制作の各講師合同講評は激しい燃焼をみせる

1 週 24 時間
入学資格 高等学校卒業程度
男女を問いません

1 年は 3 年間のドレスデザイン教科課程の基礎にあたります 一般に 洋裁の基礎とは製図 裁断 縫製など いわゆる技術の基礎勉強にとどまっていますが

- 1 デザイン感覚を 基礎から体系的に実習をおして積みあげる
- 2 研究所独自の合理的製図と裁断理論にもとづいた技術実習の展開

4 あわせて デザインを学ぶ者にとって必要な造形教養ならびに社会科学など 一般教養を身につけさせる

3 将来 広い視野をもった人間形成と デザイン感覚 および技術の基礎を身につけさせる

などの点に 特色があります
修了後は 2 年へ さらに 3 年へ進学できます



ドレスデザイン

基礎造形

造形教養・一般教養

デザイン理論

技術理論

技術実習

ドレスデザインの基礎理論

ドレスの構造 性格 用途 個性
と体型 アクセサリーの基礎理論

基礎製図理論

基礎製図実習

原型の原理と補正 婦人服の製図
理論と実習 子供服・男子服の製
図理論と実習

実物製作

子供ズボン スカート・ブラウス
各種 ワンピース カーディガン
ジャケット ツーピース 部分縫
各種

繊維の種類・性能・組織の理論 染
色の分類 製造工程

色彩

色彩理論

基礎色彩練習

オストワルドのカラーシステムに
よる配色練習

構成練習

平面 立体

色彩や材質を 視覚的・触感的に
把握する

デッサン

人体構造と機能の観察

モードデッサンによる描写練習

デザイン教養

生活の中でのデザイン およびその
結びつきを追求

デザイン諸分野への理解と手引

社会学

行動 個人と社会 社会集団の分析
文化の諸形態に共通する基礎理論

憲法政治学

日本国憲法の理念
各国憲法との比較
現代政治に内在する諸問題の分析

英語

英書講読
テキストとして“マッコールパタン
ブック”を使用

特別講座

デザイン諸分野の特別講演

1週 24時間
入学資格 当所1年修了者・
高等学校卒業程度経験1年以上

2年では 学習時間の増加にともない 密度を増した内容となります ドレスデザインの
実習は 独自の方法を取りながら範囲がひろげられ技術面の実習対象も種類がふえ 高度な理論と実習へ発展します 基礎造形は ドレスデザインの方向へ近づけられます 具体的には 色彩表現技法は応用面へ展開し ドレスデザインと緊密に結びついていきます

造形教養 一般教養は 内容が深まり 時間が増加されます 授業内容の発展にともない 校外授業 見学 など即応した対象が選定されます

この学年へは 特別措置として 所外のドレス経験者の編入を許可し 1クラスを編成し 1年進学者と初期の課程ではこととなりますが 将来3年へ進学できるよう考慮されています

ドレスデザイン

基礎造形

造形教養・一般教養

デザイン理論
デザイン実習

ドレスデザインの基礎理論の展開
構造 性格 用途 個性と体型
コスチュームドローイング
デザイン表現に必要な技法としての
デザイン画の実習
ドレスデザインのための感覚と量感の基礎練習
平面構成練習 立体構成練習
ドレスデザインの配色法 配色練習
アクセサリーの基礎理論

技術理論・技術実習

裁断理論
製図理論と実習 立体裁断 縫製実習
実物製作
シャツ ワンピース スラックス
スーツ コート 自由課題

被服材料

繊維の種類 性能 組織 用途 染色の分類 製造工程 実験(組織の性能実験・組織分析)

色彩

オストワルドカラーシステムによる
基礎色彩練習 応用色彩練習

構成練習

平面 立体 色 形 材質 などの
視覚的・触覚的の把握

デッサン

スードデッサンによる人体構造 機能の観察 描写練習

造形原論

モダンデザインを理解するための近代造形思想の流れについて

近代美術史

スライドによる20世紀の美術

服装史

服装の文化史

現代文明論

機械文明 現代芸術などの文明論的展望

心理学

心理学の基礎とデザインの心理

英語

エリザベス・レイ著“ドレスデザイン”の英書講読

特別講座

デザイン諸分野の特別講演



1
2

1 ドレスの量感・形・マテリアルの研究
2 コスチュームの材料描写と彩色練習

ドレスデザイン科の最終コースである3年は
いわば 総仕上げのコースといえます
この学年では前年に学習した成果と 学生各
自の志望にもとづいて デザイン専攻コース
と技術専攻コースにわかれ 両コースとも2
年間の感覚と技術をさらに深め きものに関
するイメージをのびし 感覚を豊かにするこ
とを主眼としています

- 1 実物製作を豊富に手がける
- 2 所外の秀れたデザイナーおよび技術家を
特別講師として招き 個性ある感覚と深
い体験にふれさせ 将来 専門家として
有能な人材の養成を期する
- 3 造形教養 一般教養ともに 卒業年度に
ふさわしいカリキュラムが考慮されてい
るなどの点に特色があります

ドレスデザイン

基礎造形

造形教養・一般教養

デザイン理論・デザイン実習

ドレスデザイン基礎理論の展開
デザイン表現に必要な技法の発展
コスチュームドローイング
モードドローイング
感覚訓練各種
デザイン画の実物表現による量感の
研究
ピンワーク
帽子デザインの理論と実習

技術理論 技術実習

裁断理論
平面裁断 立体裁断
縫製実習 デザイン画の実物表現
実物製作による布地の研究

被服概論 被服材料

服装と被服 人体と被服 被服の性
能 消費量 変遷の原則
見学と実験による繊維の性能 組織
染色の理解 機織り実習

色彩

色彩理論応用練習と服飾への発展
色彩感覚の訓練

構成練習

平面 立体 色 形 材質の視覚的
・触覚的の把握

デッサン

人体観察と描写の訓練
ムーブマンの把握

デザイン教養

職能としてのデザイナー
現状の理解と展望
衣裳生態調査
流行・服装などの衣裳生態調査
繊維企業論
繊維企業の特長やドレスデザイン
の市場解説
フランス語
フランス語初歩知識 テキスト使用
特別講座
デザイン諸分野の特別講演
ディスプレイや編集の知識と実習

3年は 卒業年度にふさわしいカリキ
ュラムのもとで 専攻コース別に それ
ぞれの科目に従ってすすんでいきま
す 技術専攻は技術を中心とし デザ
イン専攻は デザインの感覚練習を追
求していきます
基礎造形は デザイン専攻コースにお
いてのみ 設けられ 被服概論 特別
講座 教養科目などは 両コースに共
通の科目として おこなわれます



1 | 2

- 1 各自のアイデアを自由に試みるピンワーク
- 2 立体裁断のコツと布地のあつかい



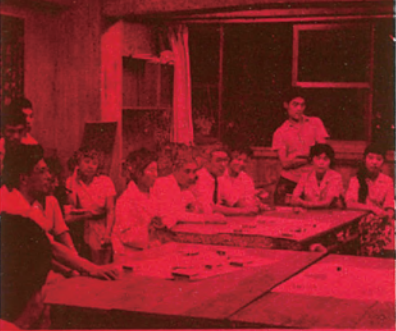
Ⅱ部は昼働しながら夜学しようとする人や他の学校と兼修する人が、デザインの基礎勉強をするコースです。基礎造形・ドレス・ヴィジュアル・プロダクトのクラスがあります。夜間クラスのむづかしい条件は、学ぶ人にとっても教科の組み方にも、時間的に制約があることであり、かつ有効適正な教育の成果が望まれることにあります。適正な教育とは、一つは基礎造形の学習であり、他は各デザインの専攻学習であります。Ⅱ部の特色は、1・夜学本人のため、各クラスとも1年間で完結するカリキュラムが組まれ、2・基礎造形および各専攻科目がヨコに配列されている点にあり、3・さらに時間のゆるせる人のためにタテに学習することが可能なことです。具体的には、基礎造形クラス・ドレス技術クラスあるいはドレスデザインクラス、ドレス技術クラス・ドレスデザインクラス、基礎造形クラス・ヴィジュアルデザインクラスあるいはプロダクトデザインクラスのように学ぶことができます。あわせてデザイン思考を深め、良識ある社会人としての教養をたかめるために、造形・一般に関する教養科目が置かれています。この年度からはⅡ部全員が選択科目として履修するようになっています。

● 基礎造形クラス / 1週 18時間 / 入学資格高等学校卒業程度 男女を問いません

このクラスはデザイン全般に共通な形・テクスチャ・色彩などの基礎実習を徹底的におこなうクラスです。近代感覚をみかきデザインの発想源を培うのが特色です。将来デザインの各分野にすすみたい人のためにはデザインの基礎トレーニングの場として好適で、このクラス修了後、別に専門的なクラスに進むことができます。また一方今まで職能人としての経験をもつ人にとっては、デザイン感覚の基礎をしっかりと学びなおすことによって、新しい多くのヒントを実際に生かすでしょう。

近代造形としてデザインを把握してゆくためには、考える頭脳・見る眼・造る手が必要とされます。このためにありきたりの方法によらず、一貫した造形教育のシステムにのっとったカリキュラムが立てられているのです。構成は材料・用具・構造・機能・意味・効果を的確に理解し、形・テクスチャ・空間などの造形要素とその相互関係を有機的・総合的に実習するのが特色です。

生活空間は建築のことばかりでなく、われわれの身近な問題から、デザインに関わるいろいろな条件を研究する。人体・衣服・生活器具・住空間・環境とそのどれをとりあげても、生活の美と能率化をもたらすデザインの萌芽をみる事ができましよう。教養科目は夜間クラス共通にデザインの総理解のために選択のうえ履修することになっています。



● **プロダクトデザインクラス** / 1週 18時間

● **ヴィジュアルデザインクラス** / 1週 18時間

工業デザイナーをこころざす人
または現在その職場にありながら
実力の不足を痛感する人のために
設けられた専門コースです 日本
でもまだ歴史の浅いID界は現在
成長期にあり すぐれた人材が各
方面に求められています しかし
現代の産業機構が生むコマーシャ
リズムに押し流されることなく
真に人間的なデザイナーであるた
めには 正しいものの見方・考え
方を確かな技術の根底にもつべき
です 当所の教育方針はそこにあ
り本コースでもカリキュラムの基
礎となつているのはもちろんです

ヴィジュアル・コミュニケーション
のためのデザインは 拡大する
社会機構と 印刷・写真をはじめ
とするマスメディアの発達により
ますます重要な役割を課されつつ
あります このクラスは プロダ
クトと同じく ヴィジュアルデザ
イン専攻希望者のために設けられ
たコースです ここはいわゆる商
業デザイナーや 腕達者な職人を
速成養成するものではなく 人間
的なゆたかさと広い視野をもち
社会的責任の自覚の上にたったデ
ザイナー・エディター・ディレク
ターの正しい育成を目的とします

限られた時間数の中で もっとも効果をあげるための
充実した授業内容が組まれています 重機器・軽機器お
よび家具デザインの実習を中心としてすすめますが こ
のうちには モデリング・製図・レンダリングの技術実
習も含まれます 最終的にはプレゼンテーションで 学
習結果の総合的把握と表現につとめます さらにIDに
不可欠の各種材料について 機能・構造・加工法を講義
および見学で学びます またここで 素材と密着した造
形の基礎を実習によつて体得し 発想源の拡大・深化を
はかります これらの結果を理論的に総合し また産業
機構の実際に即して生産性・市場性を理解するための概
論 および心理学・人間工学の専門教養をあわせ学びま
す 基礎造形クラスを経てこのコースに進むのを理想と
しますが 実力ある経験者は直接进入科もできます ただ
し36年度にはこのコースの一般募集はおこないません

ここでのシステムも 大体プロダクトコースと同じ考え
方で組まれています 実習はグラフィック・エディトリ
アル・パッケージの3課目に大別され エディトリアル
では写真による編集デザインとして 写真自体にも相当
掘り下げた学習をおこないます またパッケージは 単
なる表面処理でなく 機能・構造面のアイデアを重視し
て学ぶことはI部と同様です この実習の中で レタリ
ング・レイアウト・イラストレーションなどの基礎的表
現技術の習得につとめるとともに 印刷を主とする材料
機能の理解学習において 基礎造形と結びついた材料把
握・機能研究の構成実習もおこないます アドヴァタイ
ジング・アートディレクティングの概論・デザイン心理
学の専門教養もあわせ修めます 入科の条件はプロダク
トと同じですが 両コースとも造形・一般教養科目は基
礎造形クラスと共通に 自由に選択・受講できます



● **ドレス技術クラス**

1週 18時間
入学資格・高等学校卒業
程度 男女を問いません

● **ドレスデザインクラス**

1週 18時間
入学資格・高校等学卒業
程度 経験1年以上

このクラスは 桑沢式技術理論に重点をおき ドレスデザインの基礎となる感覚と技術を総合的に学んでいきます 特に技術の面に力をそそぐ点に特色があります 初めて ドレスについて学びたい人 男女を問わずお勤めの人に 他校と兼修する人のために あるいは家庭婦人のために 1年間で一応の教科課程を修了するよう独自のシステムをとっています このクラスを修了後 II部においてドレスデザイナーとして徹底した勉強をしたい人は基礎造形・デザイン の両クラスに学ぶことができます

このクラスは ドレスデザインの感覚実習と理論に重点をおいています 特色として 構成 色彩など造形の基礎から発展させた服飾配色・量感研究・表現技法のデザイン画などドレスデザインのための感覚訓練をおして ドレスデザインの原理と表現実習を応用面にまで展開する点にあります ドレスデザインの基礎感覚の習得は将来の 生活感覚を豊かにするためにも役立つでしょう 造形感覚の習得に基礎造形クラス 技術習得に技術クラスがあり この3年間でII部理想のコースです

デザイン理論 技術実習

ドレスデザインの基礎理論

ドレスの構造 性格 用途 個性と体型

基礎製図理論 基礎製図実習

原型の原理と補正 婦人服全般 男子服全般 子供服全般

応用製図

婦人服のヴァリエーション

スーツ コート アンサンブル スポーツウエア 他

実物製作

スカート各種 ブラウス各種 スーツ 各種基礎部分縫

被服材料

繊維の種類 性能 組織

デザイン理論 デザイン実習 技術理論

ドレスの構造 性格 用途 個性と体型など基礎理論

デザイン表現に必要な技法としてデザイン画表現実習

ドレスデザインのための感覚練習

平面 立体 色 形 材質などの視覚的・触感的把握 量感の研究

ドレスデザインのための配色練習

色彩練習 応用色彩練習

裁断理論

被服概論 被服材料

服装と被服 繊維の種類 性能 組織

特別講座

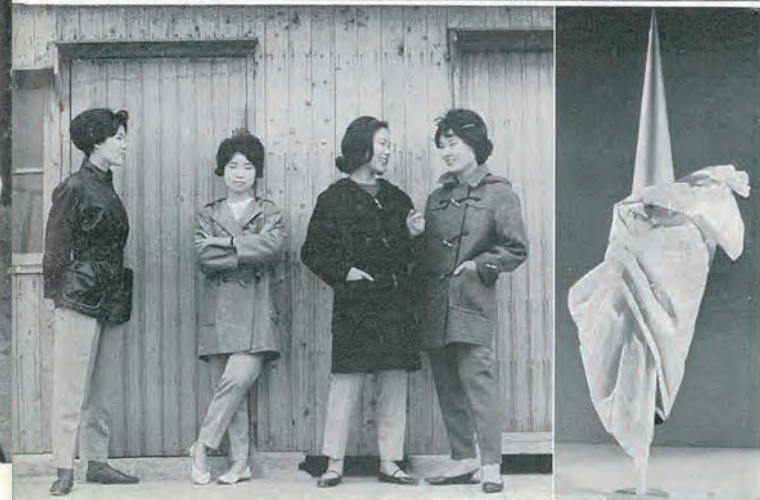
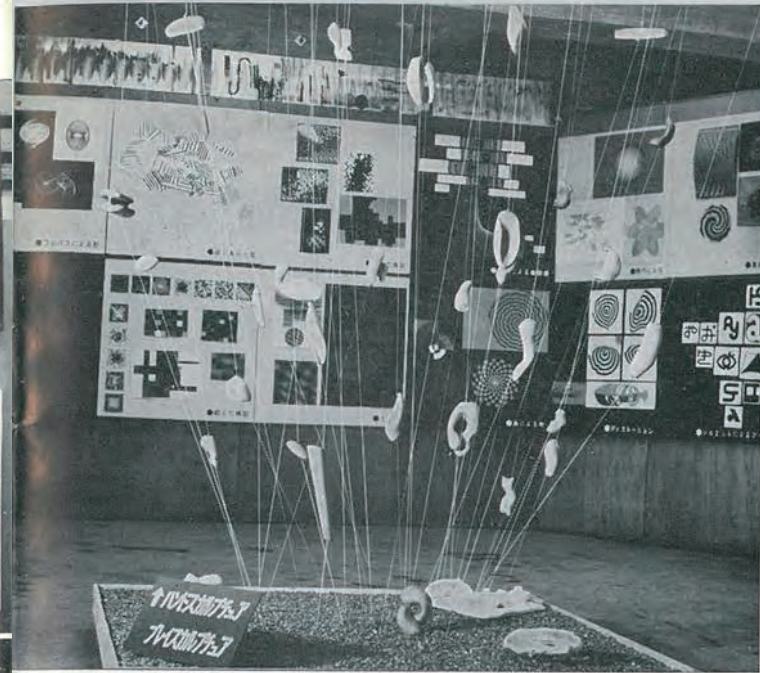
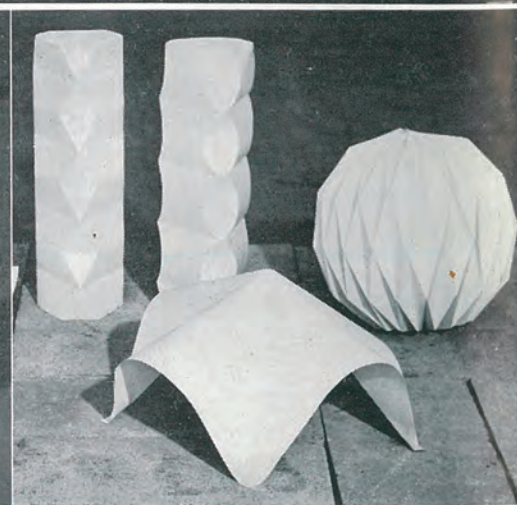
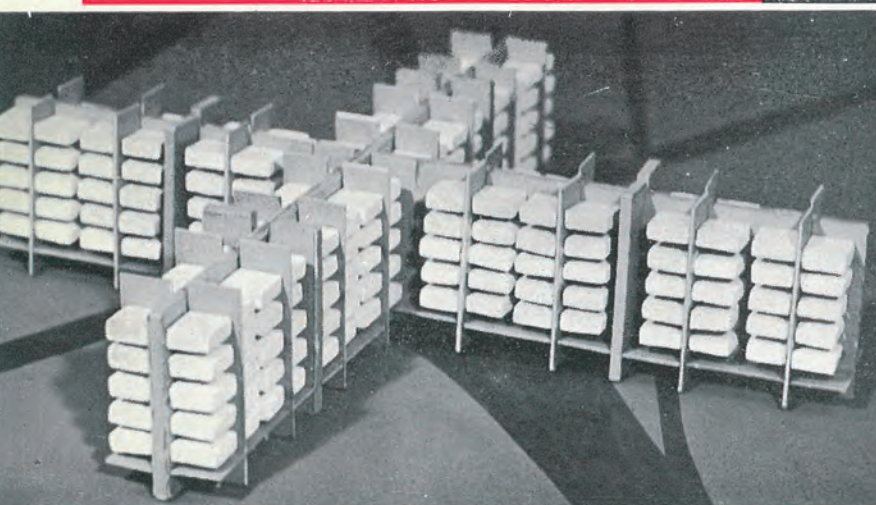
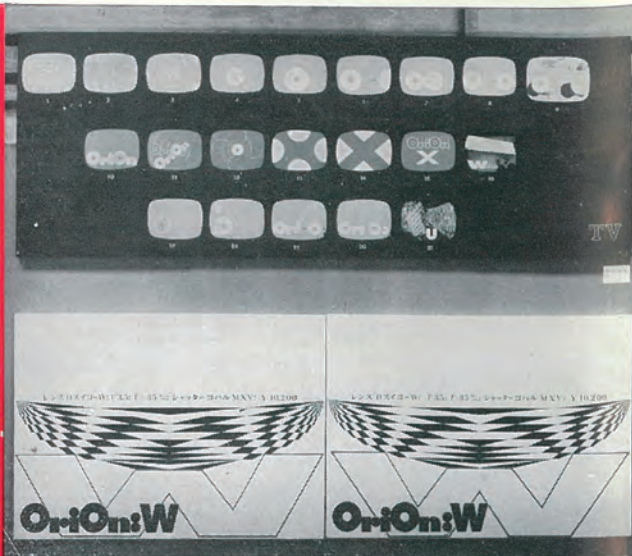
現場デザイナーのオリジナルなデザイン感覚技術公開

コスチュームドローイング

コスチュームにおけるムーブマンの観察 描写訓練

作品

年間の大きな行事の一つとして公開展がある。ドレスデザイン科・リビングデザイン科とも、各教科ごとに、年間のカリキュラムをつうじて制作された作品を中心として、授業の進行と展開を体系的に把握できるように展示されているのが、特色となっている。ここにあげた作品はその一部である。感覚と発想の中核となる共通科目基礎造形をはじめ、ドレス科の桑沢所長独自のシステムによるデザイン感覚と技術の徹底的訓練、および自由な共同製作、リビング科の、総合的視野から学ぶデザインの根本原理から、デザインの現実に対する、一つの主張を打ちだした最終制作まで、それぞれの代表的作品として、当所の教育方針の一端を示している。



1	4	7
2	3	5
6		

- 1 デザインポリシーの研究によるグラフィック最終制作
- 2 生活空間 住居ユニットの研究から発展した団地計画
- 3 シェルの集合による構成 材料・構造の原理と造形美
- 4 素材が生みだす原形的なフォルム バックは平面構成
- 5 デザインから実物製作まで 自分でつくりあげた喜び
- 6 的確な量感をつかみ 豊かな発想の源となる抽象立体
- 7 アイデアを持ちより共同製作「明日の若いシルエット」

リビングデザイン科 / 教職員

基礎造形	朝倉 撰 白石勝彦 真鍋一男	石倉 巖 高橋正人 矢沢宏司	石元 泰博 高山正喜久 矢野目 鋼	海本 健 田中 淳 横山 徳禎	佐藤 忠良 羽生 道雄
生活空間	狩野 雄一 豊口 克平	菊竹 清訓 林 雅子	篠原 一男 松村 勝男	新庄 晃 山口 勇次郎	清家 清
プロダクト・デザイン	青木 恒太郎 手塚 敬三	淡島 雅吉 豊口 克平	内村 喜之 皆川 正	金子 至 宮崎 正治	知久 篤 村越 康
ヴィジュアル・デザイン	石元 泰博 清原悦志 高橋正人 目島計一	宇野 亜喜良 草刈 順 田中 一光 山本 隆太郎	大辻 清司 小池 光三 塚田 敢	片山 利弘 佐藤 敬之輔 永井 一正	勝井 三雄 杉田 豊 浜口 隆一
造形教養	阿部 公正 浜口 隆一	勝見 勝	河合 正一	佐藤 毅	信定 宏郎
一般教養	芦原 初子 丹生 久吉	神之村 あやめ	島田 厚	高根 正昭	林 進
● 特別講師	池辺 陽 川崎 円祐 原 弘 山城 隆一	伊藤 憲治 剣持 勇 増沢 洵 祐乗坊 宣明	今泉 武治 清水 幾太郎 黛 敏郎	大橋 正 高橋 錦吉 宮 桐四郎	亀倉 雄策 田村 茂 山口 文象

ドレスデザイン科 / 教職員

基礎造形	朝倉 撰 大空 淑子 佐藤 忠良 田中 淳 和田 栄子	海本 小織 清原悦志 高橋正人 前田 晃子	枝松 真理子 根田 みさ子 高山 正喜久 真鍋一男
ドレスデザイン	東 昇 大空 淑子 桑沢 かね子 酒井 シズ子 豊田 高代 前田 晃子 柳 悦孝	五十嵐 都美 小川 安朗 桑沢 洋子 谷 二三 境 経亮 宮内 裕	海本 小織 小野 良子 根田 みさ子 徳永 八重子 平田 暁夫 柳 沼 恵美子
造形教養	阿部 公正 丹野 郁	猪野 信子 信定 宏郎	佐藤 敬之輔 浜口 隆一
一般教養	芦原 初子 佐藤 毅 林 進	神之村 あやめ 島田 厚	霧生 和夫 高根 正昭
● 特別講師	安東 武男 笹原 紀代 森 妍子 四本 貴資	勝見 勝 清水 幾太郎 諸岡 美津子	近藤 百合子 浜口 ミホ 湯原 五郎 (敬称略50音順)

桑沢デザイン研究所員

所長 桑沢 洋子

校務

高松 太郎 山本 哲也
向井 弥之助

リビングデザイン科

石倉 巖 坂野 長美
白石 勝彦 須賀 攸一
田中 淳 羽生 道雄
矢沢 宏司 横山 徳禎

ドレスデザイン科

石田 典子 石松 操
海本 小織 枝松 真理子
大空 淑子 木村 美知子
小柴 典子 小谷 光子
根田 みさ子 近藤 英
酒井 シズ子 佐藤 みさ子
谷 二三 徳永 八重子
豊田 高代 中島 道子
前田 晃子 宮沢 タイ子
村岡 寿枝 柳 沼 恵美子
和田 栄子

授業日 / 学費

部	科	学 年	授 業	選 考 料	入 学 金	授 業 料	設 備 拡 充 費
第 I 部	ド レ ス デ ザ イン	1	毎 日	1,000	10,000	年 24,000	5,000
		2	毎 日	(1,000)	(10,000)	年 30,000	(5,000)
		3	毎 日			年 30,000	
部 (昼)	リ ビ ン グ デ ザ イン	1	毎 日	1,000	10,000	年 33,600	5,000
		2	毎 日			年 33,600	
		3	毎 日			年 33,600	
第 II 部 (夜)	基礎造形クラス	1	毎 日	1,000	5,000	年 24,000	3,000
	ドレス技術クラス		毎 日	(1,000)	(5,000)	年 20,000	(3,000)
	ドレスデザイン ク ラ ス	2	毎 日	(1,000)	(5,000)	年 20,000	(3,000)
	プロダクト デザインクラス		毎 日	(1,000)	(5,000)	年 26,400	(3,000)
	ヴィジュアル デザインクラス		毎 日	(1,000)	(5,000)	年 26,400	(3,000)

- ・修業年限は各学年とも1ケ年とします
- ・授業料は6ヶ月前納をたてまえとします
- ・一度納入したお金はいかなる理由があってもお返しいたしません
- ・教材費などの雑費は入学のおりに説明いたします
- ・同窓会終身会費として入学時に1,000円納入するものとします

- ・各学年とも男女を問いません
- ・各学年への一部聴講および途中入学は認めません
- ・第I部の授業では午前又は午後のみの日もありますが すべて1週24時間です
- ・()内の学費は補欠入学者の納入するものです

入学手続

募 集 第I部(昼) ドレスデザイン科1年2年
リビングデザイン科1年
第II部(夜) 基礎造形クラス
ドレス技術クラス
ドレスデザインクラス

願 書 受 付 申 込 12月1日より
所定の書類に選考料1,000円を添えて申込むこと
提出書類 願書(当所にあり)・最終学校卒業(見込)証明・同成績証明・身体検査書(用紙は願書裏面)・写真(正面上半身無帽)名刺大2枚(4.5cm×7.5cm)

選 考 リビングデザイン科1年は日をきめて テスト 面接できめます
その他はすべて日をきめて面接できめます
各科の選考日・選考内容は別紙によります

入 学 手 続 選考の結果 合格者には合格通知をします 合格通知を受けたら10日以内に所定の学費を納入して許可証を受けて下さい この手続がおくると入学の意志がないものとみとめて 補欠者に許可をあたえることがあります

入 学 式 昭和36年4月10日

そ の 他 寮はありませんが下宿等の世話はいたします
選考や入学のために地方から上京される方のためには宿の世話をします
第I部に対しては学割が利用できます(第II部は申請手続中です)
問合せは電話(461)5330,8853
案内書は¥60です

学校法人・桑沢学園 / 桑沢デザイン研究所

東京都渋谷区北谷町32
電話 東京(461)5330,8853

